

平成 21 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 18 年度～平成 21 年度

課題番号：18520279

研究課題名（和文） 『元朝秘史』研究における文学研究の構築  
－モンゴル英雄叙事詩研究を土台として－研究課題名（英文） The Secret History of the Mongols as a literary work  
－ Based on the study of the Heroic epics of the Mongols －

研究代表者

藤井 麻湖（FUJII MAKO）

愛知淑徳大学・現代社会学部・准教授

研究者番号：90410828

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：『元朝秘史』、英雄叙事詩、構造分析、他者表象、ジェンダー

## 1. 研究計画の概要

本研究課題の対象である『元朝秘史』はチンギス・カン（成吉思汗）の祖先、チンギス・カンその人、そして後継者オゴタイの治世を描いた歴史文学作品である。我が国においては世界をリードするような研究がおこなわれてきたが、それらは歴史学的・言語学的領域に留まってきたといえ、文学的領域においてはさしたる業績がない。本研究は、我が国における『元朝秘史』の文学研究の土台を構築することを目的としている。

## 2. 研究の進捗状況

本研究は、代表者のモンゴル英雄叙事詩研究の実績を踏まえ、

1. 登場人物関係
2. 系譜
3. 時間
4. 地名

の4つの観点から考察をすすめるという当初の予定であった。

このうち、3. 時間の一部と4. 地名の一部の考察を終えた。

【雑誌論文】のとくに①は、3. 時間に密接にかかわる論である。

3. の時間に関する考察は現在中断されているが、これは2008年度に中国・雲南省昆明でおこなわれる予定であった The 16th World Congress of IUAES の国際学会が地震のため延期されたことも関わっている。しかし、この大会は今年度7月27日～31日におこなわれるということであり、報告者はこれへの参加を考えている（これについて現在2008年度の科研費の繰越願いを申請中である）。この学会においては、同分野の研究者から参

考となる意見や情報を得る予定である。実は、この学会では直接に『元朝秘史』ではなく、『エルヒー・メルゲン』神話を対象にそこに織り込まれている時間概念を発表する予定である。しかし、この発表は『元朝秘史』の時間概念を論じるさいのシミュレーション的意味をもっており重要であると考えられる。

この時間概念とは十二支という時間サイクルであるが、この時間サイクルは歴史学のジャンルにおける用法とは性格を全く異にするものである。いずれにせよ、こうした時間サイクルに着目した伝承分析は、当該研究分野では新しい発想であり、国際学会でこの発想の是非を問いたいと考えている。

4. 地名については、[図書]の①に於いて発表した。

これは、方法論的試みとして本研究課題と密接に関連するものであり、「権力関係における他者表象」の問題をジェンダーの視点から考察したものである。これは、チンギス・カンとの関連で妃たちの叙述を検討するための重要な参照枠となる点で重要なものと考えられる。

## 3. 現在までの達成度

## ④遅れている

（理由）計画予定では中国内蒙古自治区のフフホト市でおこなわれた中国蒙古学国際学術討論会（平成17年度）で発表した上記2で記述した2. 系譜に関わる部分を見直した結果、結論以外の証明のプロセスに重大な欠陥が判明したことで2. のやり直しに手間取っていることと、またこれに直接連動する1. 登場人物関係の考察が滞ったことが大きい。

また、3. 時間については〔2. 研究の進

捗状況]で触れたように、去年の国際学会が延期されたことも大きく関わっている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

当初の方法論で2.系譜部分をまとめうるかどうか早急に決断する。当初の方法論で遂行が難しい場合、[その他]の②で記したようなジェンダー論的視点によって同じ結果を引き出せるかどうかを検討する。あるいは、今年の成果である①の伝説研究の副産物が当該問題と連絡しているの、その方面との関連で考察を練り直すかという方法もありえる。一見迂遠な方法が研究の根幹に触れることがありえることを考慮に入れ、以上の3つの方法論からいずれか実現可能なものを柔軟に選択し、土台的部分を論文に結実させる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 藤井真湖, 「チンギス・カンをめぐる伝説の現在—『チンギス・カンの伝説と歴史の地』という小冊子をもとに—」, 『愛知淑徳大学研究科研究報告』, 第4号 (近刊), 2009年 (無)
- ② 藤井真湖, 「英雄叙事詩『ジャンガル』における七沖の痕跡—ジャンガルが七歳のときに権力を掌握するモチーフについて」, 『東北アジア研究』別冊1号, 島根県立大学北東アジア地域研究センター刊行, 187-226頁, 2009年
- ③ 藤井真湖, 「モンゴルの葬送儀礼」, 『万葉古代学研究所年報』, 第6号, 195-213頁, 2008年 (無)
- ④ 藤井真湖, 「謎々における馬—モンゴル英雄叙事詩の隠喩研究の補完として」, 『言語文化学会論集』, 第27巻, 133-144頁, 2006年 (無)

[学会発表] (計1件)

- ① 藤井真湖, 「モンゴルの“射日神話”『エルヒー・メルゲン』—基本話に認められる“七沖”の観念とヴァリエーションの検討」, 第32回日本口承文芸学会 (於國學院大学), 2009年6月8日

[図書] (計1件)

- ① 藤井真湖 他 (愛知淑徳大学ジェンダー女性学研究所編), 『死霊解脱物語聞書』の新解釈—ムラ共同体に挑む菊の闘いという物語として』, 『横断研究の試み—ジェンダーの交差点』, 彩流社, 225-261頁, 2009年